

## 夏の企画

生活療育支援科 浦本左起子

新センターに移転して、指導科は「生活療育支援科」に名称が変更になりました。場所も変わり、名前も変わりましたが、引き続きみなさんに四季や季節の節目を感じられる行事を企画していきたいと思っています。

生活療育支援科として、新センターに移転して初めての行事となる「夏の企画」を7月21日（火曜日）と22日（水曜日）の2日間開催しました。

今回は「海」をテーマとし、活動室3、活動室5、多目的ホールの3か所で展示をしました。活動室3では暗い深海をイメージし、沈没船に残された、宝箱に入っているスイッチを押すと、ガイコツ船長の亡霊が現れる仕掛けを作りました。お化け屋敷のような雰囲気でしたが、怖くて泣いてしまうような人はおらず、みなさん驚きながらも楽しんでいる様子でした。活動室5では、ハンモックに乗ったスティッチの人形がお出迎えし、プチプチスタンプ



で色塗りされた大きなクジラや、天井には魚が泳いでいるように見える仕掛けがあります。ゆらゆら揺れる魚の仕掛けを不思議そうに見つめ、海に潜った気分を味わっている人もいました。多目的ホールでは、大きなスクリーンを使って海の生き物の映像を流し、いろいろな海を表現しました。



2日目には、葛西臨海水族園の移動水族館も来てくださり、本物の魚を見ることができました。今回から初参加になった、通園のお子様たちは、展示の部屋を堪能してから移動水族館に来てくれました。お母さんや先生に抱っこしてもらって、水槽を覗いていた子たちは興味津々に魚の動きを見つめ、水族館を楽しんでいました。

新型コロナウイルス感染対策のため、御参加いただいた皆様には、見学時間の調整や、暑い中での待機など御理解と御協力をいただき感謝申し上げます。

暦では立秋を迎え、秋の訪れを感じられるはずが、暑い日が続いております。皆様も健康にはお気をつけて、次回「秋の企画」でお会いしましょう。お楽しみに。



〒183-8553  
東京都府中市武蔵台2-9-2  
東京都立府中療育センター  
電話 042(323)5115  
FAX 042(322)6207

\*-\*-\*ホームページもご覧ください\*-\*-\*  
<http://www.fukushihoken.metro.tokyo.jp/fuchuryo/index.html>

# 府中療育センター新聞

## 屋内プールができました！

生活療育支援科長 笠井剛



新しい府中療育センターでは、建物1階部分に通年で利用可能な屋内プールが設置されました。今回はそのプールについて御紹介します。

プールの大きさは縦6m×横9m×深さ1mで、旧府中療育センターや多摩療育園の屋外プールと比べてひと回りほど大きくなりました。水槽内の水は機械で制御されており、循環しながら加温や消毒が行われ、常時安定した環境での利用が可能となっ

ています。プール自体が屋内プールとなったほか、附属設備として採暖室や障害者用トイレ、2か所の更衣室なども新たに屋内に設置され、天候に左右されることなく利用できるようになりました。

プールの利用にあたっては、昨年度に府中療育センターと多摩療育園が合同で運営準備会を設置して利用の基本方針を定め、新センター移転後は新たにプール委員会を発足して利用開始に向けての準備を進めてきました。

重症心身障害をもつ方にとって、プールでの活動は、水中で重力の影響から解放されることや、水の特性である粘性の抵抗などにより、普段はできない体の動きが可能となったり、骨や関節への負担が少なく体を動かせるなどの効果があると言われています。また、そのことが利用者さんの喜びや自信に繋がったり、健康の増進や生活の質（QOL）を高めることなどにも繋がっていきます。

一方で、プールでの活動にはケガなどのリスクも伴うことから、安全に配慮した実施環境の整備を行うとともに、医療安全対策室と連携して緊急時のシミュレーションなどを行い、安心・安全に利用できるように努めています。また、新型コロナウイルス対策についても、ICT（院内感染制御チーム）と連携して、感染防止策を取りながら利用できるように実施手順や環境を整えています。

プールは8月から段階的に利用を開始し、9月には通園、通所、入所を合わせて延べ20回以上の利用が予定されています。当面は、真冬の期間を除く11月頃までを目途に利用していく予定です。

今年は新型コロナウイルスの影響により、残念ながらプール開きのイベントは実施できませんでしたが、安全に配慮しながら、より多くの利用者の皆さんに楽しんでいただけるようにプールの有効活用を図っていききたいと思います。



緊急時シミュレーションの様子

## セクション紹介【通園】

通園主任技術員 土屋明子

通園は、1歳から就学前までのお子さんが保護者の方々と一緒に通っています。多摩療育園から新センターに移転して3か月。はじめは、通園施設の広さに戸惑っていたお子さんたちも、心地よく感じるのかのびのびと動き回っています。

これまで実施していたおなじみの保育活動も再開しました。今年は梅雨が長引いたため、広い園庭で遊ぶ機会が少なくなりましたが、梅雨明けからはベランダを利用して、



泡あそび、ボディペインティング、水あそび等、夏ならではの活動を楽しんでいます。新しく、広い室内プールでは、親子で気持ち良さそうに泳いだり、波や流れに身体を預けて浮かんだりして、ほほえましい姿が見られてひと安心しています。今後も新型コロナウイルス感染症への感染予防策を講じながら、お子さんが安心して、楽しく、元気に通えるように取り組んでまいります。



## セクション紹介【薬剤科】

薬剤科長 深野光司

こんにちは！薬剤科は正面玄関を入って右手にあります。常勤5名と非常勤3名の薬剤師が、薬の調剤や、短期入所時の持参薬の確認などを行い、利用者の皆様が安心して薬を使っただけの日々奮闘しています。夜間と休日は薬剤師が不在のため、医師や看護師に協力してもらっています。この場をお借りして感謝申し上げます。

当センターの薬の特徴は、散剤がとても多く、錠剤も必要に応じて粉碎する必要があることです。そのため新センターの改築に当たっては、他の医療機関より大きな散薬台や、最新式の散薬分包機と錠剤分包機を導入して、色々なお薬を朝昼夕毎に1回分にまとめて分包できるようにしました。これらの装置は精密機械なので、毎日部品を外して入念に清拭しています。

また、薬剤科内は薬品倉庫や処方箋などの書類倉庫（最長で20年間保存するものもあります！）を兼ねています。大切な薬品の品質を維持するため、空調はベストコンディションです。特に夏場の猛暑日には、薬剤に関する情報交換を兼ねて涼みにいらして下さい。



## 夏祭りを開催しました ～3C・3D～

例年、夏祭りはフロア合同で開催していましたが、今年は新型コロナウイルス感染症対策のため、病棟別に開催しました。各病棟の様子をお伝えいたします。

## 3C病棟

保育士 山田志津子

今年度の夏祭りは、3C3D合同ではありますが、新型コロナウイルス感染症拡大予防対策のため、それぞれの病棟で実施することとなりました。2つの病棟で、現在も流行中の「あつまれ どうぶつの森」をテーマにしました。キャラクターやアイテムを集め、島を作り出すという内容で、日々の活動では、利用者さんとキャラクターやアイテムのスイカ・魚・とうもろこし・トマトなどを作成しました。



当日は、開催前に2つの病棟保育士が入れ替わり、それぞれが作成したアイテムをお互いの病棟の中に隠しあいました。スタートすると隠したアイテムを何度も探し回る様子や、野菜取りや魚釣りで取れたものを自分の膝の上に置きとびきりの笑顔を見せてくれたり、手足を動かして喜びを伝えてくれ、とても賑やかな楽しい時間を過ごすことが出来ました。今回、作成した作品はセンター祭りに展示する予定です。来年はもっと大きく賑やかな夏の行事になることを願っています。

## 3D病棟

保育士 瀬野由佳

8月19日の夏祭りは「あつまれ どうぶつの森」をテーマに実施しました。例年は3C（旧4-1）病棟と合同で行っていましたが、今年は新型コロナウイルス感染症対策のため、単独での開催となりました。それでも、計画、準備の時には、一緒に今年のテーマを決めてイメージを作り上げていきました。

当日は、お互いの病棟で利用者さんと共に制作したキャラクターやアイテムを病棟のあちこちに貼り、見つけ出して楽しみました。デ



イルームのスクリーンには、「あつまれ どうぶつの森」の映像を映し出して雰囲気盛り上げました。

病棟の廊下をキャラクターの絵を探して歩き、見つけた絵の裏に描いてあるアイテムをさらに探してデイルームの森と島の地図を完成させました。キャラクターを探して何周も病棟を回る方や、ぶら下がった果物を一生懸命に取りようとする方、アイテムを大事そうに握りしめている方など、思い思いに楽しんでいました。来年の合同行事では、もっとたくさん交流できることを願っています。

